

スリランカのお茶事情について
＜紅茶と旅＞

31 期 小島 夕佳

紅茶の国、スリランカより紅茶にまつわる旅についてご紹介いたします。

コロンボに駐在している中で、日本の交通の利便性や正確さを知っていると、多少不便さなど感じることもありますが、スリランカ国内の旅行費は日本よりもリーズナブルで旅行しやすいと感じています。

今回は、リプトンズ・シートという茶畑を見下ろせる展望台訪問についてです。リプトンズ・シートはハプタレーというコロンボから 170km ほど離れた場所にあります。車ではもちろん、ハプタレーには電車やバスなどの交通機関を利用して行くことが出来ます。

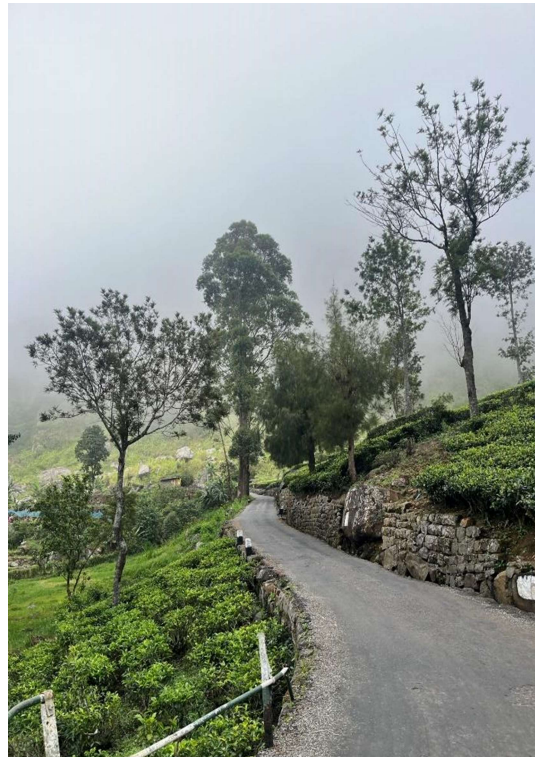


ハプタレーに到着してから、リプトンズ・シートに行く途中にダンバテン茶工場という紅茶工場があります。

ダンバテン茶工場もハプタレーの市内からバスを利用して、訪れることができます。私が訪れた際はバスを使いダンバテン茶工場まで行きました。

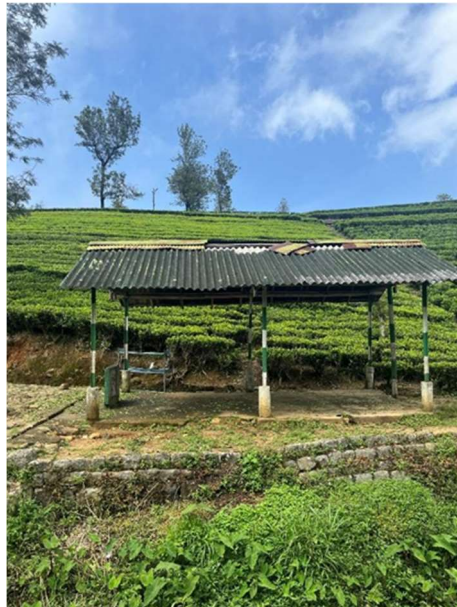


1890年にトーマス・リプトンによって建設された標高 1566m にある紅茶工場。
工場見学も受けられているので、紅茶ができる過程の見学もしました。中の写真撮影は控えるようにということでしたが、しっかり工場内の案内をしてもらえるので、紅茶製造について学びを深めることができます。



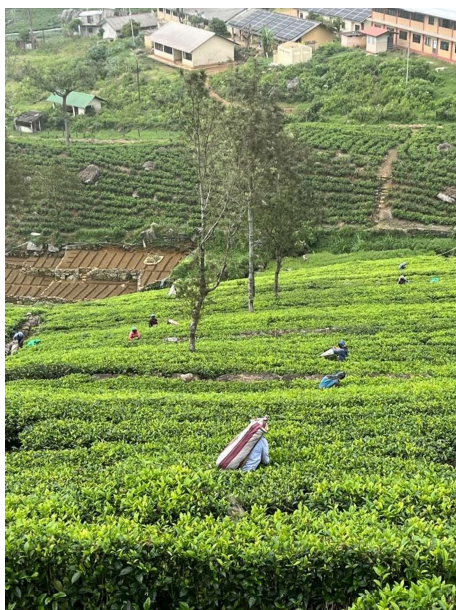
そして、こちらの工場から6kmほどさきにリプトンズ・シートがあります。この6kmの道のりは茶園がある道なりで、紅茶好きには心が弾む道かと思います。

リプトンズ・シートが最終目的ですが、天気も良かったので散歩がてら、歩いてみましたが、茶摘みや摘んだ茶を収集し量っている風景など、茶の葉が工場に届くまでのさまざまな様子を見ることができました。茶園内が村になっていて、ヒンドゥー寺院や教会、学校などもあり、学校終わりの子どもたちと一緒に少し歩くこともありました。

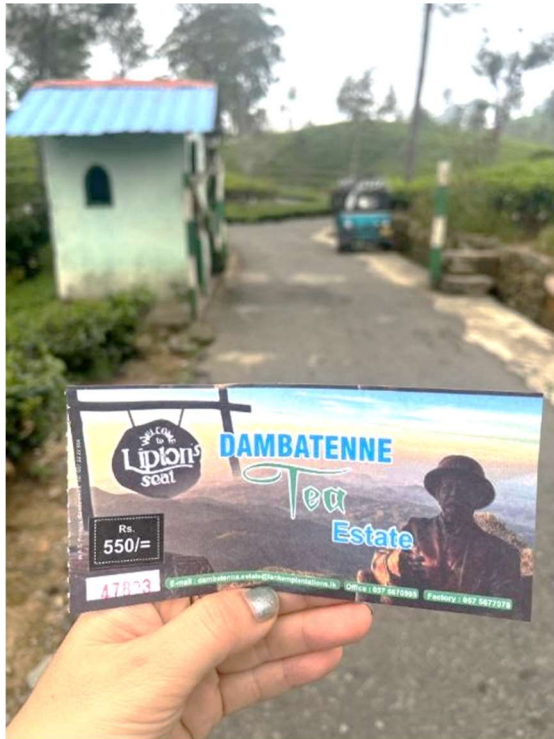


旅路の中で茶摘みをしている方たちは写真を撮らないかとお誘いもしてくれますが、日本円で数百円のチップを支払うことになります。

スリランカでは日本よりも給与水準が低く、このようなサポートも現地の方にとっては大事な生活の支えになります。紅茶生産に関わる人たちへのサポートがこのような形でできるのかと考えることができ、現地スリランカに来て実際に旅をしているからこそ感じる感覚かと思いました。

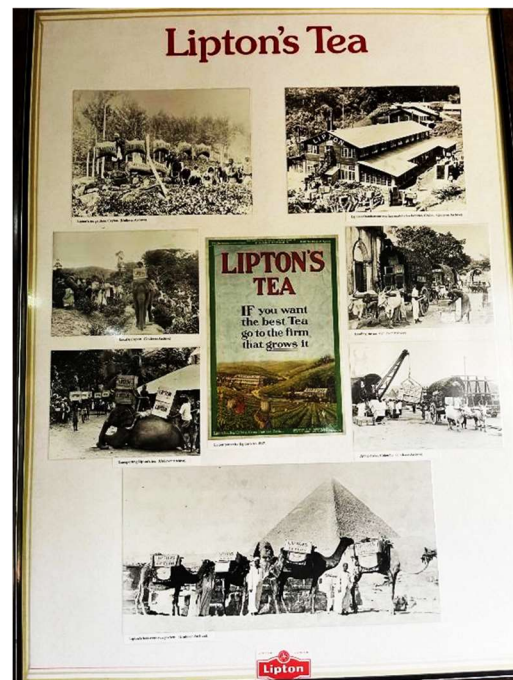


リプトンズ・シートに到着する前にゲートがあり、入場料Rs.550（日本円で約280円ほど）を支払います。車両を使用していくとさらにプラスで料金がかかりました。



私が到着した際は残念ながら霧がかかっていましたが、風景は真っ白で幻想的な雰囲気でした。リプトンズ・シートにたどり着くまでの茶畑に囲まれた自然の美しさに浸ることができるのもリプトンズ・シートを訪れるおすすめの理由です。

また、キャンディにジェームステイラーやトーマスリプトンなどセイロンティーに関わる人物や歴史の展示などが豊富にある紅茶工場を改装したセイロンティー博物館があります。



スリランカで最も古い紅茶のパッケージなども展示されており、紅茶好きには見ごたえのある博物館なのです。こちらの展示のひとつにリプトンティーについてのポスターがあり、ダンバテン茶工場（写真 右上の建物 Lipton's Tea）も残されています。

スリランカ国内を旅している中で様々な紅茶の場所が繋がっていくのも、その場所を訪れる喜びの一つとなります。

今回、紅茶にまつわる場所をいくつかご紹介させて頂きましたが、スリランカにお越し頂くきっかけやアイディアになれば幸いです。